

今週のメニュー

■トピックス

- ◇「プラスチックに関する消費者団体との懇談会」
(日本プラスチック工業連盟・広報委員会主催)に参加

■随想

- ◇生涯現役2 「農作業三昧」その2
日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事 大内 功

■編集後記

■トピックス

- ◇「プラスチックに関する消費者団体との懇談会」
(日本プラスチック工業連盟・広報委員会主催)に参加

3月3日に昨年に引き続き、消費者団体とプラスチック業界との間でプラスチックの使用や様々な課題について相互理解を深めることを目指し懇談会が開催されました。今年は、消費者団体からの要請もありプラスチックの環境問題などについて活発な意見交換が行われました。また、VECが中学校で行っている出前授業の内容を紹介しました。

参加した消費者団体は、主婦連合会、生活協同組合ユーコープ、全国消費者団体連絡会、全国消費生活相談員協会、東京都地域消費者団体連絡会、東京都地域婦人団体連盟、日本消費者協会、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、日本生活協同組合連合会の9団体で17名です。一方、プラスチック業界は、日本プラスチック工業連盟（プラエ連）ほか、広報委員会のメンバーである塩化ビニリデン衛生協議会、塩ビ食品衛生協議会、石油化学工業会、日本プラスチック板協会、プラスチック循環利用協会、ポリオレフィン等衛生協議会、そして、私たち塩ビ工業・環境協会（VEC）の8団体です。



プラエ連からの情報提供

今回は、プラエ連から、環境関連で最近マスコミ等でしばしば取り上げられるプラスチックの海洋ごみ問題とそれに対するプラスチック業界の取り組み状況、及び、プラスチックの有用性として欧州のプラスチックの情報や、昨年発刊した「暮らしの中のいろいろなプラスチック」を紹介しました。

海洋ごみは、日本海側では近隣諸国からの漂着ごみが多いが、全体では日本国内で捨てられたものが川を流れて海に出ていくものも多いとのこと。川ごみや海ごみには樹脂ペレットも含まれていることから、業界では樹脂ペレットの漏出防止に取り組んでいることを紹介しました。また、荒川のごみ問題に取り組んでいるNPOに協賛し、水辺に散乱するプラスチックごみの回収活動に協力していることを紹介しました。

これに対して、消費者団体から、荒川のごみ問題への取り組みに対して評価していただき、さらに地域を広げるなどこれからの活動に期待する声や、ペレットの漏出防止に関する業界の指導強化の要望がありました。

VEC は、中学校で行っている出前授業の内容を紹介するパネル展示とプラスチックの性質を調べる密度の実験やその密度差を利用してペットボトルや PVC 電線被覆材の回収とリサイクルが行われていることを紹介しました。

消費者団体からは、この実演コーナーで、水への浮き沈みがリサイクルに応用されていることなど、ためになる話を聞いたとの感想と共に、出前授業をどんどん進めて欲しいという励みになるご意見をいただきました。また、授業での要望として、ごみ問題にも触れプラスチックの抱える問題提起や公平に判断できる情報提供をして欲しいとの意見をいただきました。努力して参ります。

一方、意見交換の時間では、消費者ならではの視点から、レジ袋削減の是非について熱い意見交換が行われ、また、食品包装材の輸入品に関する品質と安全対策に関する業界の取り組みについて質疑応答が行われました。予定の4時間があっという間に過ぎ、参加いただいた多くの方々から有益な情報をいただいたとの声が聞かれ、次年度の開催を期し閉会となりました。



VEC の出前授業の紹介

■ 随想

◇生涯現役2 「農作業三昧」その2

日本セキュリティ・マネジメント学会常任理事 大内 功

みかん山でのボランティア

20 数年前から頼朝ゆかりの石橋山でみかん山の手伝いをしています。家内を含め、10 人程度で、草刈、剪定、摘果、みかんの収穫・選別、そして近所の方、知人への原価販売を行っています。みかん農家も他の農家と同様に高齢化が進み後継者がいないため、荒地の斜面が増えてきています。みかん栽培は労働集約型で今の売値では食べていけません。継続している農家はサラリーマンの息子が休日に手伝うとか、嫁が動けるところです。ボランティアなども活用し、上手い町・村おこしができないか考えさせられます。

最近小田原のみかんも品種改良が進み酸味プラス甘みの強いものが増えてきています。鼻屑目もありますが、甘いばかりのみかんよりも多少酸味があった方が美味しいと思っています。11月の早生に始まり、藤中、大津、青島（典型的な小田原みかんで2月まで賞味できる）と続き、1月に入ると八朔、ネーブル、2、3月が清見オレンジ、ゴールデンオレンジ（小田原特産でカボスみたいに小さいが香りと甘みが強い）、4、5、6月はニューサマー、甘夏、7月はバレシアオレンジと続きます。全てを手伝っているわけではありませんが、夏場を除き年中消費者として無農薬みかんを楽しんでいます。

竹山の整備

このみかん山の奥に孟宗竹の山があり、毎年この山の管理（整備、収穫）も仲間と行っています。筍の収穫は楽しみで4月末から5月は毎週のように筍刈り、筍専用のマイ鍬を持っています。10人で数百本ぐらいをとるので、現地で皮を剥き、大釜で茹でることにしています。近年は筍泥棒（人）と猪の被害（鼻、牙で土を掘り、中身のみを食べる）を受け、被害を受ける前に取ろうと競争になっています。

花のボランティアと真竹

これも 20 数年前から、家内が無類の花好きであることから花栽培のお手伝いを国府津で始めています。もちろん主役は女性陣で、私どもは畑で、力作業が必要な時はお手伝いをしています。この花農家の裏に真竹の山があります。真竹は、この国府津付近の特産品で孟宗竹よりも歯ざわりが良く、味を知った方からは人気のある筍です。これも世話しないと即、魔の山（日光が入らない暗い山に筍が剣のように出てくる様）のようになり気味が悪く一人では入れない状況になってしまいま



開成町アジサイ祭りで、真竹販売

す。当初はまさに魔の山、伐採するに従い日光が入り息を吹き返した感じでした。この筍を生産者農家の直販店に出荷する他、開成町のアジサイ祭りで、私どもが販売したのがきっかけで、毎年祭りに出店しています。

定年退職を機に、より農業に専心し晴耕雨読の世界に浸りたいと考え、マイ果樹園を少しずつ進めているところです。ミカン類、柿、りんご、栗を数本ずつ植え、相模湾を見下ろしながら、まだ少ない収穫を楽しんでいます。

(つづく)

次回は、生涯現役3 「環境マネジメント研究会」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

朝晩、日が長くなってきたのが実感できるようになってきました。日曜日、暖かい日差しに誘われてリビングの網戸と窓を掃除しました。気温も上がり外での水仕事も苦にならなくなっていました。ガラスもさっぱりと拭きあがり、心なしか明るくなった部屋で春を心待ちにしています。

白い手紙がとどいて明日は春となるうすいがらすも磨いて待たう

斎藤 史

(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp